

ウラノスPJ検討WG 活動方針

特定非営利活動法人
ITコーディネータ協会
つなぐIT推進協議会
共通EDI標準部会

ウラノスPJ検討WG発足の趣旨

- 目的

1. ウラノス・エコシステムのデータ連携基盤を活用して**発注者主導の中小企業「請求レス方式」**を大手・中堅企業・IT先進中小企業の発注者へ提案し、普及させる
2. **取引・会計・金融データのシームレス連携**を実現する
仕組みをウラノス・エコシステムのデータ連携基盤の上に構築する
3. 税理士・金融機関等の**取引データ第3者利用者**へ共通フォーマット取引データを公的に認められた環境で提供するため、ウラノス・エコシステムのデータ連携基盤上に当該システムを構築する

- 成果目標

- ウラノス・エコシステム・データスペース・レファレンス・アーキテクチャモデル(ODS-RAM) AnnexBの事例登録を目指す
- ウラノス登録事例をベースに当該システムの実用サービス提供と普及を実現する

ウラノスPJ検討WGの運用

1. 参加メンバー

- 参加資格に条件はなく、中小企業取引データ交換のデジタル化普及に関心をお持ちの方。
 - 取引当事者、ITベンダー、取引データの第3者利用者、中小企業支援団体・支援者、データ連携標準化有識者等
- 参加メンバーは個人の立場で参加する

2. 開催要領

- 会議形式：リモート会議
- 開催頻度：毎月1回 2時間程度

3. 費用等

- 参加費：なし
- 参加報酬：なし

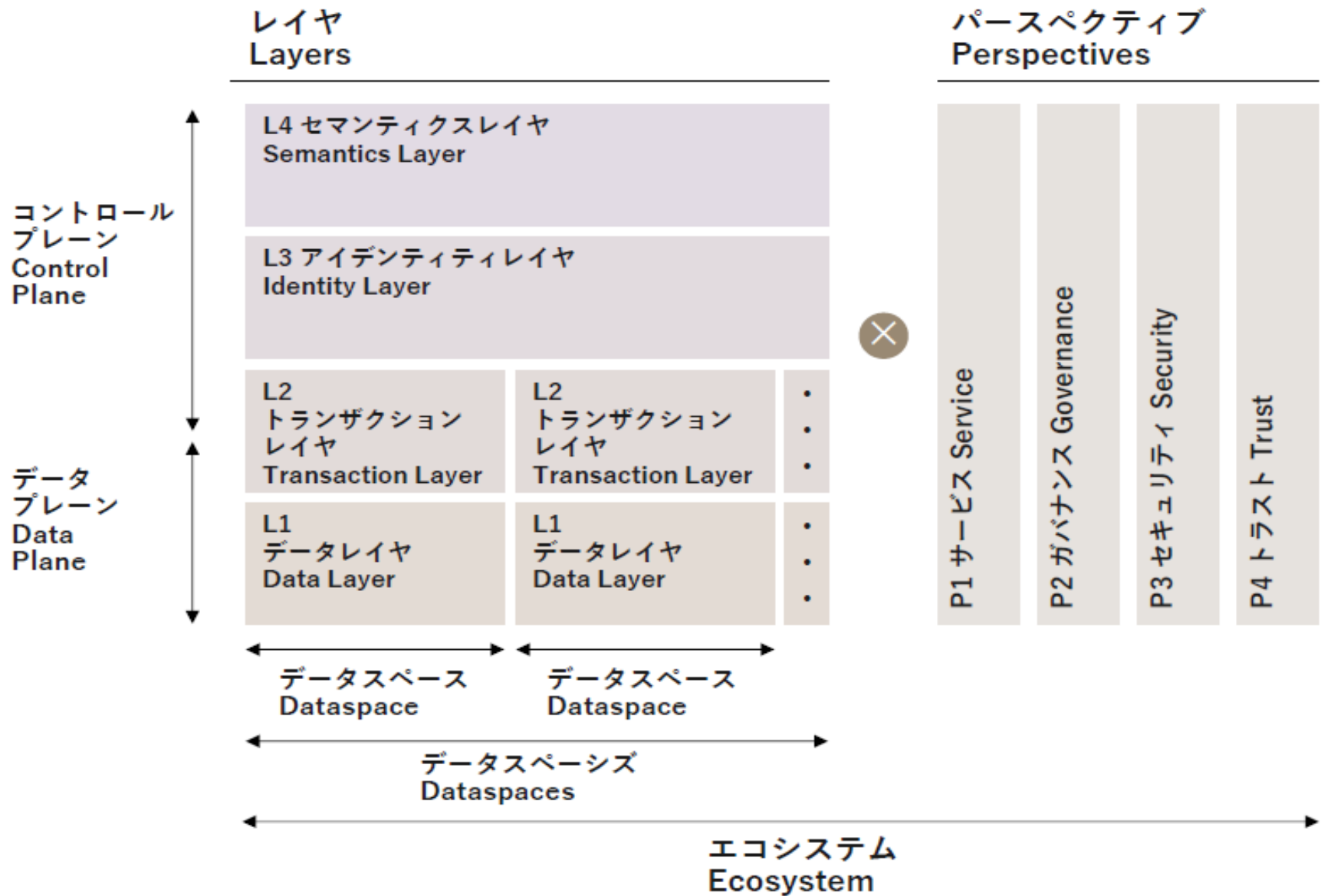
⇒ボランティア活動であることをご理解いただき、ご参加ください

ウラノス・エコシステム の概要と対応

ウラノス・エコシステムの立ち位置

- ウラノス・エコシステムは経済産業省が主導する産業データ連携データスペースの実現を目指して開始された産業政策
 - ウラノス・エコシステムは異なる企業・業界を超えたオープンなデータ連携による産業データの活用を目指す
 - 2025年2月に技術的基盤に関するウラノス・エコシステム・データスペース・参照アーキテクチャモデル (ODS-RAM) を公開
まだ検討中の事項も多く、2025年度中に公開を予告されているアイテムも多数あり
 - 2025年5月にウラノス・エコシステムの社会実装を進めるために、ウラノス・エコシステム・プロジェクト制度を開始した。ウラノス・エコシステムの趣旨に合致する優良事例を公募することを公表
- 中小企業共通EDIは業界を超えた取引データ連携と取引データ活用のデータ連携環境実現を目指してウラノス・エコシステム・プロジェクト制度の公募に応募する

ウラノス・アーキテクチャモデルの構成



中小企業共通**EDI**のウラノス対応

- 中小企業共通**EDI**は中小企業のデジタルインボイス移行の促進を目指して下記の提案を行っている
 - 【提案 1】 ユーザーにメリットを提供できる**発注者主導中小企業「請求レス方式」**の実用化
 - 【提案 2】 取引・会計・金融間の共通連携データを**税理士等の「第3者利用者」**に提供できるIT環境の実用化
- この仕組みを業界を超えて利用できるようにするために、**ODS-RAM**への対応を目指す
 - データ提供者のデータ主権を確保した取引データの第3者利用の仕組みを確立する
 - 取引・会計・金融のシームレスデータ連携環境をウラノス・データスペース上に構築する
 - ODS-RAMのAnnexBの事例掲載を目指す

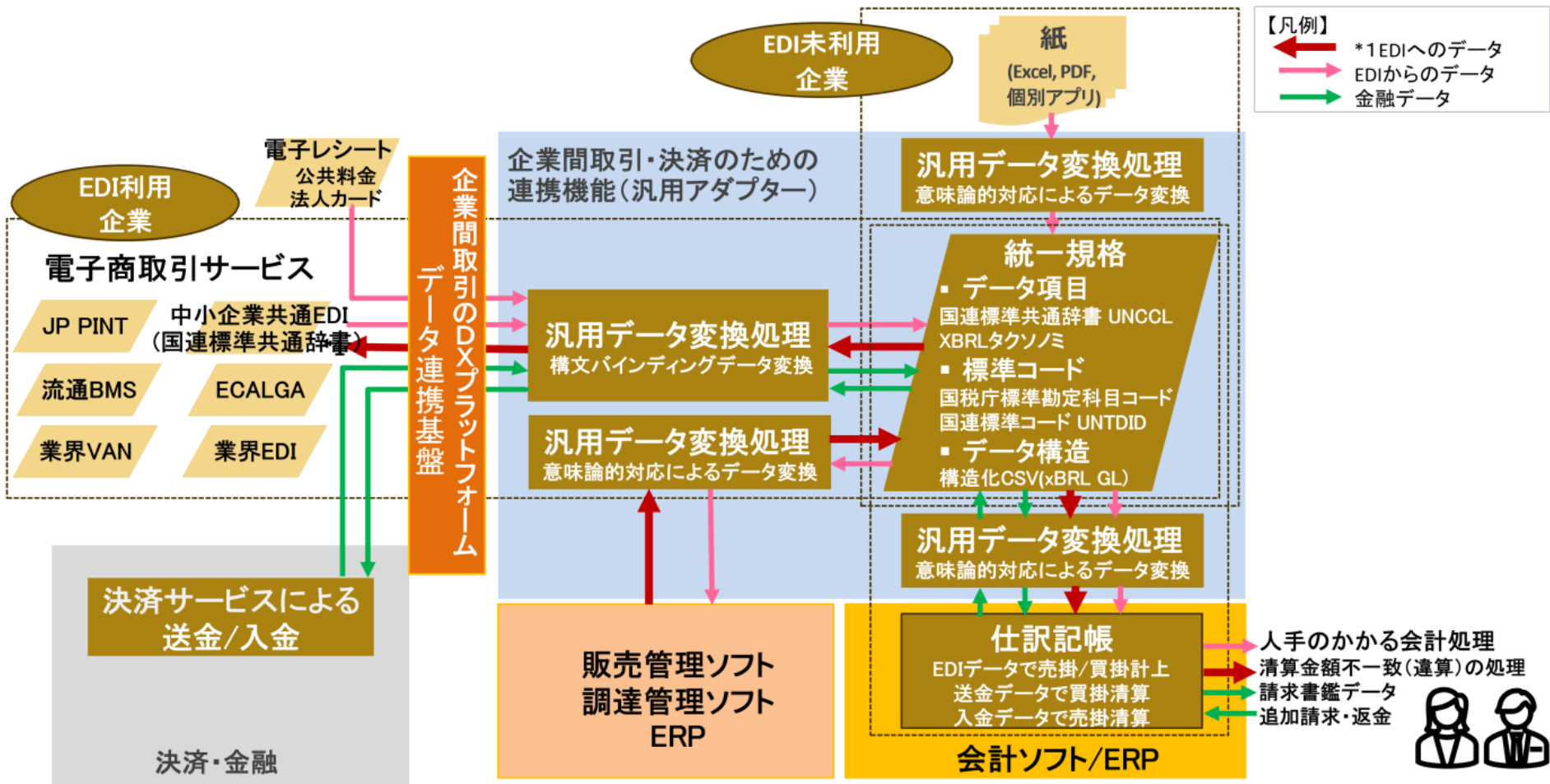
中小企業共通EDIのODS-RAM対応（その1）

ODS-RAM		P1 サービス パースペクティブ	中小企業共通EDI
レイヤ	プロトコル	データスペース ファンダメンタル サービス(DFS)	Ver.4.2（現状） ⇒ ver.4.3
L4セマンティクス レイヤ	Metadata Exchange	セマンティクス モデリングサービス	国連共通辞書ベース メッセージ／マッピ ング変換サービス ⇒ 参照データモデル
L3アイデンティ ティレイヤ	Identity and Trust	クレデンシャル 発行サービス	共通EDIプロバイダの 管理に依存 ⇒ GビズID導入
L2トランザクシヨ ンレイヤ	Transaction	データスペース コネクタ	共通EDIプロバイダが 合意したXML連携、 CSV連携、API連携 ⇒ 構造化CSV
L1データレイヤ	Sovereignty Data Trust assessment Data Trustworthiness and Quality Assessment	ソブリンデータ ストア	⇒「発注データ提供 者」（発注者）の データストアに依存 ⇒ 鑑ヘッダMsg(取引- 会計連携) を追加 ⇒ 第3者利用者への開 示データ範囲提案

中小企業共通EDIのODS-RAM対応（その2）

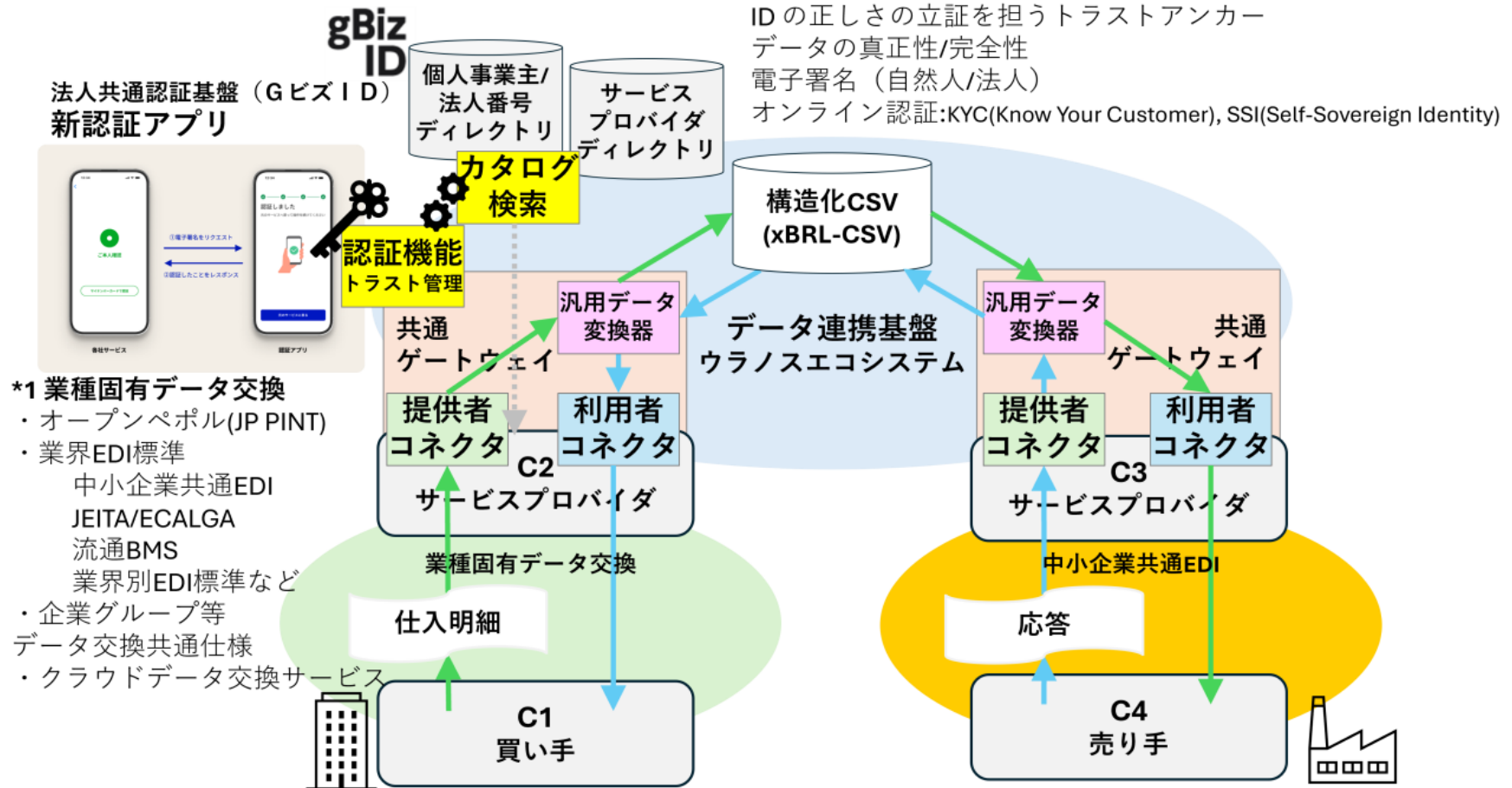
ODS-RAM		中小企業共通EDI	
パースペクティブ	パースペクティブ要件	サービス仕様 Ver.4.3	今後の方向
P1サービスパースペクティブ	前スライドに記載	・参照データモデル ・「GビズID」組込 ・構造化CSV ・鑑ヘッダMsg追加	・2026年以降に標準ver.4.3の実証事業と実用サービス提供 ・ウラノスPJへ登録⇒標準ver.5
P2ガバナンスパースペクティブ	公益デジタルプラットフォーム運営事業者認定制度 標準化：TBD 適合性評価：TDB	TBD	ODS-RAMの方針明示に基づき対応を検討 ⇒標準ver.5
P3セキュリティパースペクティブ	TBD	TBD	同上
P4トラストパースペクティブ	TBD	TBD	同上
基本原則： サービス多様性と 協調領域	原則：分散型サービスモデル 拡張：連邦型サービスモデル	連邦型 サービスモデル	ハイブリッドモデルへの拡張⇒大手ユーザーへの拡大／取引データ第3者利用者の拡大 ⇒標準ver.5

中小企業共通EDIを目指すウラノス提案

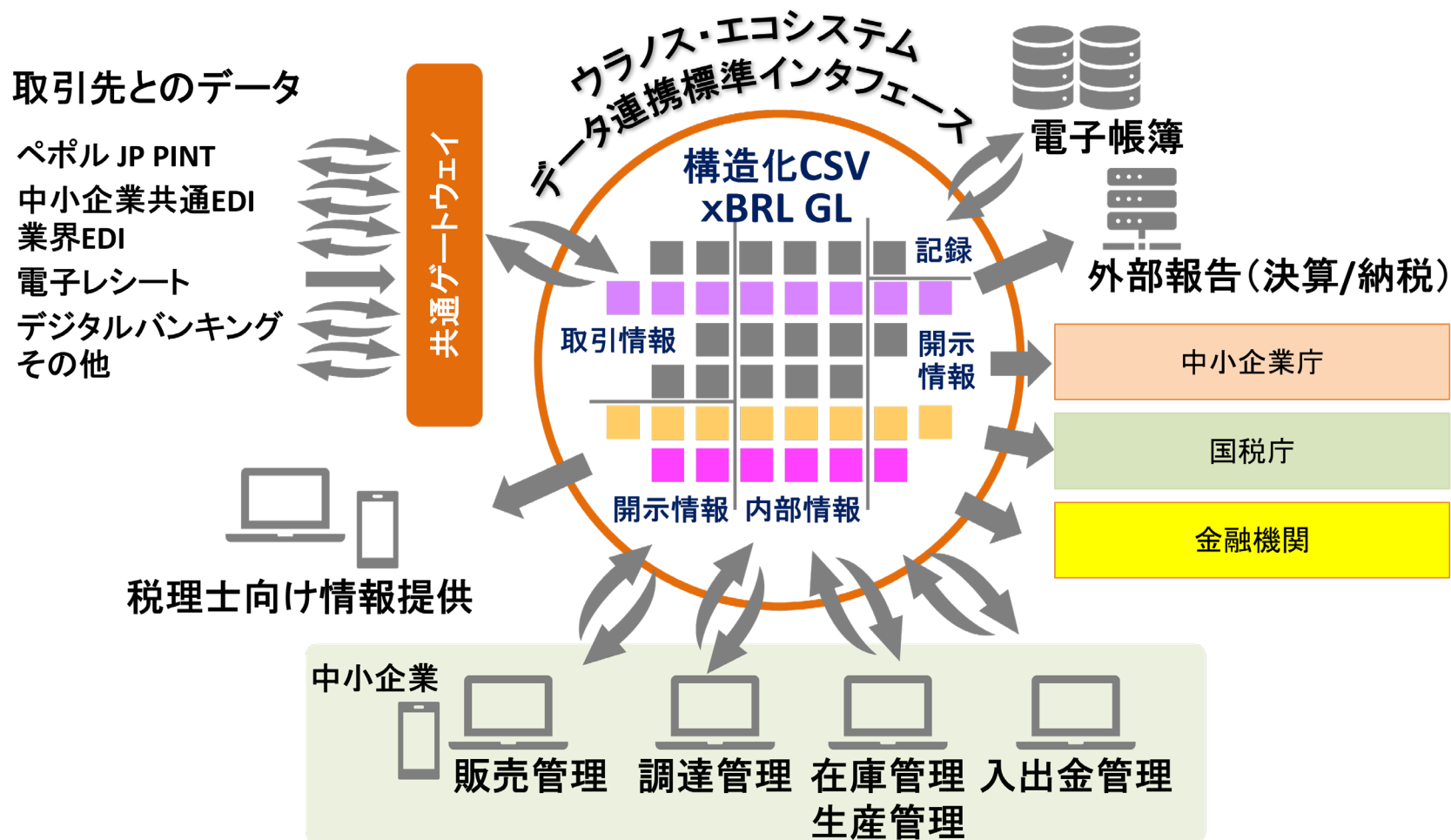


中小企業共通EDIを目指すウラノス対応

統一された企業IDを基礎とする異なるデータ交換間の4 コーナーモデル

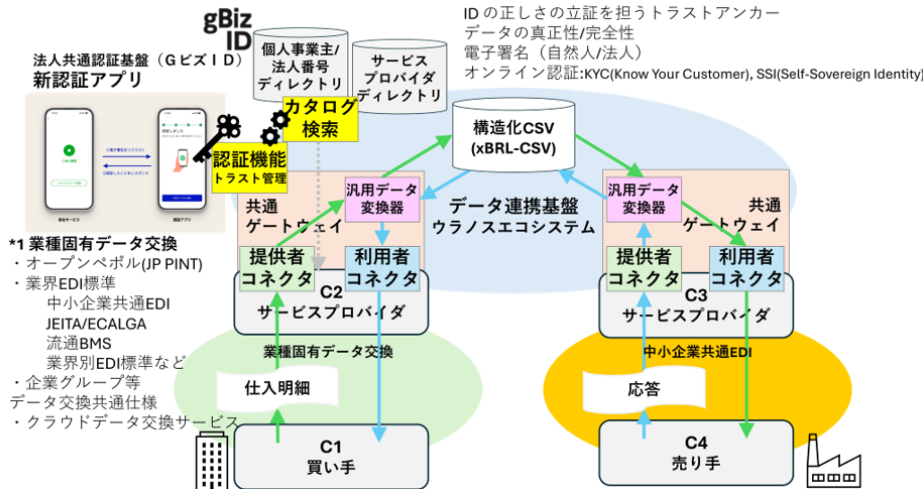


ウラノス・エコシステムが提供する取引データ連携基盤



【ODS-RAM AnnexBの掲載目標例】

中小企業取引・インボイス・会計の企業・業界を超えるデジタルデータ連携



実施時期	2026年以降
概要	2023年にインボイス制度が施行されインボイスの記載要件が法的に規定された。しかし大企業間取引では業界固有仕様でデジタル化され、中小企業取引では書面請求書のアナログ運用が継続し、すべての企業間取引のデジタル連携が実現していない。 ODS上に取引・インボイス・会計のデータ連携基盤を構築し、すべての事業者間取引のシームレスなデジタルデータ連携を実現する環境を整備し、我が国産業界トータルの生産性向上を目指す。
典型的なデータ	企業間で交換される注文・出荷・検収データ、インボイスデータ、会計データ
データスペースの必要性	現状は業界固有、ITベンダー固有のデータベースが利用されており、事業者間のシームレスな連携が特に中小企業取引で阻害されている。この現状を打破するためには、業界を超えるデータスペース構築が必要
データスペースの応用シナリオ	発注者にメリットを提供できる中小企業「請求レス方式」を中小企業取引データスペース上に構築する。 税理士、金融機関等のEDIデータ第3者利用者へEDI取引データを公的に提供するとともに、会計システム経由で金融システムへのシームレス連携を実現する。

サービスロール

サービス利用者

EDI取引発注者
EDI取引受注者
取引データ第3者利用者
・税理士、会計士
・金融機関、信用保証協会

サービス提供者

データ主権者：EDI取引発注者
サービス提供者：EDIプロバイダ